しものせき市民活動センター　市民活動取材／取材票

取材先	下関空襲・終戦展実行委員会		
企画名	第20回下関空襲・終戦展「下関要塞地帯と重砲兵の証言パネル展」		
取材日	２０２４年８月１２日(月) 天候[晴れ] ［ １３：００～：１５：００ ］	取材地	しものせき市民活動センター

レポート

“皆さん、ご存知ですか？古来より海上交通の要として、その役割を果たしてきた関門海峡周辺がかつて下関要塞地帯と呼ばれたことを・・・”

終戦から79年、第20回下関空襲・終戦展「下関要塞地帯と重砲兵の証言パネル展」が8月12日から20日まで、しものせき市民活動センターで開催されています。
この企画展は、下関空襲・終戦展実行委員会が、終戦60周年を機に、平成17（2005）年から毎年夏にテーマを変えて行なっているもので、今回で20回目となりました。

まず、開催初日には、「大輸血航路ー関釜連絡船 崑崙丸撃沈」と題して、宗像市教育委員会の池田 拓氏による講演があり、会場いっぱいの約40人の方が、映し出される資料に見入っていました。近代日本にとって対馬海峡は、軍隊、軍需品や米、大豆などの生活必需品を南満州鉄道・朝鮮鉄道を経由し、船舶で内地に送り込む大輸血航路であり、その大輸血航路を担った関釜連絡船と、太平洋戦争で撃沈した「崑崙丸」についてのお話でした。

「パネル展」では、重砲兵の証言パネルと共に、市内各所に砲台や堡塁(※)があったこと、また市内のみならず、対岸の洞海湾、玄界灘から沖ノ島に至るまで砲台が築かれていたことなど、関門海峡周辺がかつて下関要塞地帯であったことが見て取れます。
※ 火の山・蓋井島第一、第二・角島・老の山・筋山(彦島塩浜) ・田の首・観音崎(豊浦町室津)砲台や龍司山(高畑)・一里山(椋野)・金比羅山・戦場ヶ野(後田)堡塁

戦争体験者が年々減少しているいま、戦争を知らない私たちが、更に次世代へと語り継ぐために何ができるのか、「忘れてはいけないことがある　どうしても伝えたいことがある」という本会の理念が、これからも継承されるべきだと強く思いました。

状況写真

【講演】

講師の池田 拓氏

挨拶をする
井手代表

【パネル展】

下関要塞司令部
門柱　移設前

火の山砲台

蓋井島 第一砲台

筋山砲台

金比羅山堡塁

蓋井島 軍の桟橋

井手代表(中央)と会員の方々